

【私の学習方法】

※私はH28年度に施工計画で一発合格しました。普通の人とは恐らく違うやり方ですので掲載依頼するかどうか迷いましたが  
私もこのSUKIYAKI塾のおかげで合格できましたので、何かヒントになることがあればと思い、投稿させていただきます。(乱文申し訳ありません)

【私の学習プラン】

	11			12			1			2			3			4			5			6			7		
	10	20	30	10	20	30	10	20	30	10	20	30	10	20	30	10	20	30	10	20	30	10	20	30	10	20	30
1.過去問題の収集	■																										
2-1.必須過去問				■																							
2-2.技術ノート作成				■																							
3.技術ノートの刷り込み				■																							
(業務経歴と小論文の書き方)	■						■																				
4.論文解答作成法の習							■																				
5.模擬試験																1題ずつ おおよその時間でやってみる						土日計8回 本番同様、3回程度					
6.筆記試験																											★

※願書の申し込み

※試験日

【2次試験を受験するにあたって】

◆大きな流れ

2次試験の研究、準備 → 技術ノートの作成 → 技術ノートの刷り込み → 手書きでセルフ模試 → スキヤキ模試 → 本番

↙ 出願セミナー → 出願(業務詳細) → 論文セミナー → セミナー仲間と模試 ↘

①受験科目の決定

(目的)確実に自分にフィットする科目を選択するため。

(方法)「国土交通白書の読み方」1-4-(2)「専門知識と応用能力から選ぶ」のチェックリストから選ぶ

過去問、受験者数、合格率等もチェック。総合的に判断する。(学習仲間を見つけるなら、受験者数が多いほうが見つけやすい。)

※単に「今やっている業務だから」「何となく」「思い込み」で選ぶと、口頭試験の業務詳細に関する質問で「これは他科目の内容では？」というドボンを食らうことがある

## ②資料集めと2次試験の勉強方法の勉強(③と合わせて1ヶ月程度)

(目的)2次試験がどういうものなのか研究し、効率的で正しい努力をするため

(方法)1.「聴く!技術士二次試験論文のツボ」「技術士試験勉強の仕方」を読む

2.日本技術士会HPで、受験申し込み案内、二次試験実施大綱、改訂情報をチェック。

3.SUKIYAKI塾HP内の「2次試験対策」「試験概要」「2次試験体験記」「合格・不合格記」などを熟読。人の失敗から学ぶことは、多い。

4合格論文集と100本ノックの入手 …… DLマーケットよりDL。1500円で「DLキー」というものを購入すれば無制限にDLできるという話も聞いたことがある。

100本ノックとは必須科目Ⅰ対策用のスマホアプリ。必須科目Ⅰの学習はこれだけで十分。

5.勉強部屋の用意。音読するので家族に聞かれると結構恥ずかしい。

## ③学習プラン

(目的)継続的な学習と自己管理するため

(方法)論文のツボp.48～ に従い、学習プランを作成する。(上記【私の学習プラン】参考)

### ◆ノルマ設定のポイント

①ノルマはぬるめにする。

厳しいノルマを課すのは、残り1～2カ月になったらで、最初から厳しくするとそのうち嫌になる。

②ノルマは調整

その日ノルマの「半分」しかなかったら、「しなかった分は翌日やる」という具合でノルマは日程間で調整して、日々の仕事などとバランスを取る

③やらない日を作らない

1日やらないと、(これは人によりますが)ずるずるとやらなくなります。10分でもいいので毎日必ずやるようにする。

④ノルマの消化をノルマにしない

矛盾するようですがノルマの消化に集中しすぎると、自分は本来試験を受けるんだ、ということを忘れてしまいます。

直前になったら模試や、想定問題なども学習に取り入れて、試験本番さながらの時間、環境、室温でやってみて試験本番にフィットさせて下さい。

#### ④技術ノート作成

(目的)体系的な学習と効率的に記憶するため

(方法)1.論文のツボp.20～ に従い、技術ノートを作成する。(私は3.5日で1テーマ作成していました)

2.過去問より、p.26のようなカテゴリー及びテーマ分けをする。

3.ICレコーダーアプリ「MG Voice Recorder」を使い、音読&ヒアリング用に録音。

4.録音データとスマホ内のミュージックアプリを共有し、携帯で常にヒアリングできる状態にする。

(技術ノート作成における注意点)

※「目的」と「おわりに」は不要(本がH24年以前対応のため古い) その代わりに「残留課題(留意点)」を設けると良い。

残留課題とは 例)「解決策:ドローンの導入」→「残留課題:導入の費用対効果と法規の整備」のように  
「解決策はあるが、これから乗り越えていく問題点もいくつかありますよ。」というニュアンスのものです。

※音読データはフォルダ名、ファイル名に「管理番号」をつけ、技術ノートと連携させることで、技術ノートと同じ順番で再生される。

例)フォルダ1 「01コンクリートの劣化気候と対策」

ファイル1 「0101コンクリートタイトル」

ファイル2 「0102コンクリート背景、課題」

ファイル3 「0103具体的な対策」

ファイル4 「0104留意点、残留課題」

フォルダ2 「02市街地掘削における留意点」

ファイル1 「0201市街地掘削タイトル」

ファイル2 「0202市街地掘削背景、課題」

ファイル3 「0203具体的な対策」

ファイル4 「0204留意点、残留課題」

#### ⑤技術ノートの刷り込み

(目的)作成した技術ノートを声に出し、耳から聞くことで確実に記憶に定着させるため

(方法)技術ノート作成開始から3週間～1ヶ月遅れで開始する。(技術ノートが未完成のまま録音開始すると修正手戻りが面倒なため。)

通勤、駐車場への移動、待機時間、昼休み、エレベーター待ちなど様々なすきま時間を利用してリスニング。

録音データを3周くらいリスニングし、2周目以降は倍速でリスニングし、時間短縮。

## 【セミナーについて】

客観性とノウハウの取得のため、セミナーへの参加を勧めます。

私は「広島檸檬の会」のセミナーがマッチしました。

APEC(鳥居)氏(SUKIYAKI塾の発起人)のセミナーが近隣であれば、APEC氏の講義も大変ためになる。

またセミナー後の親睦会も、時間があれば参加した方が色々な話が聞けて有意義。

### ◆2月下旬:出願セミナー

参加人数は少ないが、口頭試験で命取りとなる「業務詳細」の添削をしてくれる。

この段階から学習仲間を物色し、セルフ模試の出し合い、情報交換、ネタの収集に役立つ。

そのため、名刺は必携。

このセミナーを受講していれば、口頭試験前に非常に心強い。また論文試験さえ受ければ合格が見えるという勇気が湧く。

### ◆4月下旬:筆記セミナー

参加人数が徐々に増える。論文ノウハウはもちろん、技術士試験制度の構造や

ネットには流れない裏話なども聞ける。午後は科目ごとに分かれての講義となるため

学習仲間を見つけやすい。ここでもやはり名刺は必携。

### ◆6月下旬:模試

参加人数が増え、早く申し込まないと定員オーバーとなる。専門問題Ⅱと課題解決問題Ⅲの模試がある。

当日は専門問題Ⅱの解説・講義があり、課題解決Ⅲは後日メール等での添削だったと思う。

この模試までに専門問題Ⅱ～課題解決Ⅲまで通し、でセルフ模試を行っておき、本番さながらの雰囲気を受けることを勧める。

※何の準備もせず、問題を見て頭が真っ白になった時の実力を試す人もいるらしい。

### 【学習に向けた気持ちの持ち方とかコツとか】

長期間に渡る学習は、「疲弊」「仕事と家族とのバランス」「楽しいことの我慢」で非常にしんどいです。こんな辛いことは1回で終わらせるため、気持ちの持ち方やコツなど、私が行ったことです。

#### ◆技術士合格のキーワードは「客観性」と「題意に沿う」こと 「客観性」

学習仲間を見つけ、共に学習する最大のメリットは「客観性」です。自分では満足していても他人から見れば、物足りない、表面的、支離滅裂ということはよくあります。

特に自分の立場と全く異なる人の論文は参考になります。

ただし気をつけなければいけないのは、仲間が多くなりすぎると、お互いに出し合ったセルフ模試の添削などに時間を奪われ、負担になります。3~4人でコンサルタントや発注者、建設業者など混在するのがベストです。

#### 「題意に沿う」

「軟弱地盤における市街地掘削において・・・」という題意であれば、軟弱地盤つまりヒービングなどについて書き市街地掘削つまり幹線道路や重交通による影響を書かないといけません。用意している知識、知っている知識を書くだけだと、点が稼げず、人との差が生まれません。

当たり前の事のように聞こえますが、学習を進め、ネタを固めていくに連れ、この配慮は難しくなっていきます。結果的に、用意した回答の方向性に歪めたような形になり、ぼやけた結論や支離滅裂な文章になることがあります。これを克服するためには、知識量を増やすしかありません。

#### ◆学習は朝

これは人にもよりますが、朝の方が「集中力がある」つまり「学習が嫌になるまでの時間」が長い。私は5:30~7:30に学習していました。

#### ◆絶対に1発で受かるという気持ち

受験生みたいで何かイヤですが、案外これは大事です。「また来年・・・」という心の隙きを作らない方が良いです。PCの壁紙など、常に目に入る箇所に鼓舞する言葉を掲げ、奮い立たせていました。

◆実は合格率は5割？

セミナーなどに来て、本気で学習している人だけで合格率を考えると5割という話を聞いたことがあります。実際受験する方々の中には「記念受験」や全く勉強せずに「万が一受かるかも」という方もいます。それらを排除した実質的な合格率は、そうなのかもしれません。

◆セルフ模試

セルフ模試で、過去問題、想定問題を制限時間内に解いてみます。最初は時間制限は設けなくても良いですし「専門問題Ⅱ-1」の1枚論分だけで構いません。初めは「とりあえず」くらいしか書けませんが、徐々に慣れてきます。慣れてくれば、週末の時間を利用して専門問題Ⅱ-1、Ⅱ-2、課題解決Ⅲの通しで解いてみたりします。

あと、セルフ模試は手書きで行うことをオススメします。慣れてくれば時間を測り、カウントダウンのドキドキから始まって、本番のつもりで書き始めます。使うシャーペン(鉛筆)、消しゴム、時計も全て本番と同じシチュエーションで行います。

編集のしやすさから、ワードやエクセルで行う人が多いと思いますが、実際手書きで行うことで自分の書くスピードが遅いのか早いのか肩がこる、指が痛くなる、手に汗をかくならその対策を講じるなど、できます。

この時、ただ書いただけでは何の役にも立たないので②で入手した「過去問」などと照らし合わせて、内容が不足する場合は自分で赤ペンなどで添削します。

ある程度書くことができてきたら、セミナーなどで知り合った仲間(複数人)とメールなどでやり取りし、「想定問題」「提出期限」「評価シート」「添削期限」などを設け、論文を交換します。客観的視点により、内容、言い回し、類似的、冗長的な内容の削除など、論文の「質」を磨くことができます。

◆無理な受験は禁物？！

試験日が繁忙期ではないか、自分以外の人間が対応できない重大な業務と重ならないか、毎日深夜まで仕事していないか。今年が忙しいなら無理に受験せず次のチャンスを待つという、「勇気ある撤退」も必要です。

◆オリジナルは模倣から

合格論文集ばかり参考にしてしていると「人の真似ばかりで本当にこんな学習でいいのか？」というジレンマに陥ることがあります。しかしもともと「0」から始めた人間がいきなり立派な論文を書けるはずがないのでそこは割り切って、人の真似から自分のオリジナリティを出していけば良いと思うようになりました。